

Echoes of Time

景 色 が 受 け 継 ぐ 能 代

15～18ページは、能代市市制20周年記念事業の一環で実施する
秋田公立美術大学と能代市の連携による特集ページです。

vol. **OI**

November, 2025

未
来
を
照
射
す
る

(次ページ) 有機的な水、背景にぼんやりと浮かぶ幾何学的模様。対照的な両者が、実はともにオレンジ色の光に輪郭を与える存在であることに気づく。これは水ではなく光を捉えた写真なのだと腑に落ちた時、写真から受ける柔らかな印象の正体がわかった気がして、嬉しくなった一枚。

(撮影場所：能代エナジウムパーク)





写真で切り取った 一瞬に潜む「創造の源」

能代市市制20周年記念事業の一環として、秋田公立美術大学と能代市の連携企画「Echoes of Time」が始まります。この企画は、能代の「何か」を対象とした写真に、文章を添えるかたちでお届けします。今号では、この企画に込めた私たちの思いをご紹介しますいただきます。

「Echoes of Time」は必ずしも「20年」という区切りに焦点を当てるものではありません。私たちが光を当てたいのは、この20年という歳月を可能にした長い歴史の流れ、この地に根ざした時間の積み重ねです。この歴史から、能代の未来を照射する資源を見出したいと考え、「写真」というメディアを用いることにしました。

本企画の狙いを端的に言えば、「写真の力で、新しい能代の魅力を

創造する」ことです。重要なのは、魅力を「再発見する」ではなく「創造する」という点です。

本連載で写真を担当する草薨さんの作品は、写真によって初めて創造される世界があることを、私たちに教えてくれます。草薨さんは、雪や水といった自然物を、手ブレすら許さない1／8000秒という一瞬で切り取ります。すると、身近なはずの存在が、決して肉眼では捉えることのできない、全く異なる存在として立ち現れるのです。その写真は、私たちが知っている世界、経験してきた世界との接点を断ち切り、安易な連想を拒むものといえます。だからこそ、私たちは写真の前にただただ佇み、純粹に対峙することになるのです。この対峙こそが、日常に潜むまだ見ぬ豊潤な世界と出会う瞬間であり、写真によって創造された世界が私たちに響き始める瞬間でもあります。

どうも企画への思いが強すぎて、肩に力が入りすぎましたが、次号から草薨さんによる「能代の写真」に對して、私が文章を綴っていきます。それは解説や説明ではありません。私は、写真の専門家ではないので、そもそもそのようなことはできません。私ができることは、草薨さんの写真と対峙し、そこから感じたことを好き勝手に書き連ねていくことだけです。格好良く言えば、「積極的な誤読」とでも呼ぶべき試みです。

私の文章は、写真家によって鋭く「切り取られた」世界に呼応する一つの「こだま (echo)」です。それは、無数にある解釈の可能性の一つを示す、ささやかな試みです。私の「誤読」をきっかけとして、読者の皆様の中にも「こだま」が生まれれば、企画の発案者としてこれに勝る喜びはありません。「Echoes of Time」、どうぞご期待ください。

(井上宗則)

● 草薨 裕 Yu Kusanagi

写真家、秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻准教授

1982年秋田県仙北市生まれ。東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士。生まれ育った秋田県内の自然や風土を、写真でしか捉えることのできない不可視の「瞬間と循環」を主題として撮影。秋田を拠点に国内外で多数の個展、グループ展に参加し作品を発表し続けている。

● 井上宗則 Munenori Inoue

秋田公立美術大学景観デザイン専攻准教授
1980年鹿児島県生まれ。九州大学大学院博士前期課程修了、東北大学大学院博士後期課程修了。博士(工学)。専門は建築・歴史意匠。民間企業において携わった東日本大震災の復興計画等の実務経験を踏まえ、国内外の集落デザインに関する研究を行う。また、参加型のデザイン手法の在り方を模索し、サイン、建築、公園、散策路等の実践的な活動を行っている。

Echoes of Time

(エコーズ・オブ・タイム)

景色が受け継ぐ能代

vol.01 | November, 2025

写真 草薨 裕
執筆 井上宗則
デザイン 越後谷洋徳
編集 高橋ともみ
企画 秋田公立美術大学
制作 NPO法人アーツセンターあきた

能代市市制20周年記念事業業務委託